

## JBC 東京試合役員会会議(ZOOM 使用によるリモート会議) 【議事録】

～全国拡大開催～

2022 年 10 月 4 日 (火)

東京 19:30～21:15

(以下、氏名は五十音順、敬称略)

- ・主催：中村 (東京試合役員会・会長)
- ・議長：飯田 (東京試合役員会・副会長)
- ・書記(ZOOM ホスト)：須藤 (東京試合役員会・会計)

・出席者 (以下 40 名)

JBC 事務局【本部】成富、松原、【関西】坂本、田中敬

【東京試合役員会】浅尾、飯田、小野、葛城、小村、篠崎、杉山、須藤、高橋、中村、野中、蜂須賀、マーチン、山岸、吉田 (15 名)

【中部試合役員会】加藤、村瀬 (2 名)

【関西試合役員会】今村、植村、田中新、田中優、西川、半田、政野、室矢 (8 名)

【西部試合役員会】粟屋、荒巻、岩崎、恵良、大藤、謝敷、棚町、當山、野田、姫野、福本 (11 名)

### ◆19:30 開始

- ・議事開始宣言〔飯田副会長＝議長〕
- ・開会挨拶、および本日の会議主旨説明〔中村会長〕

### ◇事務局より連絡事項等

・〔松原局員より〕10 月から新規研修生有り。教務の必要性として出番以外役員の入場も再開する。前日までに松原局員に申請必要。(本部管轄、東京試合役員会限定の連絡事項として)

・〔坂本関西事務局長より〕11 月、12 月に関西での興行が同日に重複する日程があるので、本部 (他地区役員会) からの応援が必要になるので協力願いたい。

・〔成富本部事務局長より〕コロナ禍の中、興行は増加傾向にある。役員の職務必要性も高くなってくるので更なる協力をお願いしたい。

### ◇試合検証～事前配布画像の視聴による (中村・飯田)

※画像共有 (PowerPoint にて、画像・チャートを使用した視覚確認で進行)

事前に配信共有していた動画の検証結果の確認。

各自からの意見を集約、協議。以下について共有事項とした。

#### ・試合中の脱臼

⇒試合展開や選手の継続意思、興行としての考慮も兼ね合いとして必要になる場合も多

いが、毅然として『安全管理』は最優先するべきである。(一時的に回復しても再発症する可能性や、片手で防御不全になる事で致命的な被弾の可能性が増える事を考慮)

・ **ゴング後の加撃**

⇒残り 10 秒 (拍子木) からの意識を持つ。レフェリーの立ち位置、打ち合いの中では分かりやすく大きな声によるストップ指示。

・ **ラビットパンチ**

⇒故意性と偶然性の見極めが重要。展開上、後頭部への加撃が予測されるケース (打たれる側の選手が頭を下げ続けている等) は事前にレフェリーが注意する等の回避策も取るべき。

・ **ストップ後の加撃**

⇒故意性と偶然性の見極めが重要。故意性がある場合は、減点、休憩の対応。

・ **リングアウト (ロープ外への転倒)**

⇒ロープの緩さ = 試合前のリングチェック。設営状況によっては限界があるので、試合中にレフェリーがロープを掴んで緩みを減少させる等の対処が必要なケースもあるので注意 (四隅の支柱の高さを得られない低いリングの場合等)

⇒インターバルの延長、休憩等の必要性 (選手の事後状況の観察が必要)

⇒レスリング行為であれば減点 (反則の見落としをしない)

・ **以上に関して、共通補足**

⇒ラウンド中の休憩は最大 5 分であることを確認した。(ルール 116 条 4 項)

⇒タイムキーパー、リングアナウンサーへの連携も重要。観客に分かりやすくする意図も意識。ジェスチャー、宣告、発声、明確に分かりやすくすること。(従来会議からの継続確認)

◇その他

・ 質疑・要望等

《**前回、事務局への検討事項の経過確認**》タオルウェーブ等の場面で、レフェリーが気づけないケースに対応する為にスーパーバイザー、ジャッジ 3 氏の四方に“STOP カード”を持たせて掲示する等の素案

⇒〔成富本部事務局長より〕形 (カード等) にするのではなく、役員の連携の中で対応する方が望ましい考え方 (形式を優先してレフェリー権限を軽視する方向への懸念等) もあるので、具体化は結論を急ぐべきではなく (経過観察として) 保留としたい。

〔成富本部事務局長より〕試合役員の協力無くして興行は成り立たない。年末にかけて興行も多いので引き続き協力をお願いしたい。

◆21:15 閉会挨拶 (中村)

(21:15 終了)

以上

(次回会議の予定は別途連絡)